

阿羅本後記

阿羅本 景

どうも、阿羅本です。

『晩月舎三冊目の同人誌』『晩月 卷之二』でございますが、皆様お楽しみ頂けましたでしょうか？

この同人誌の位置づけとしては、夏コミ刊行の『晩月』のラインを継いで月姫全般のSS本としてのリリースを目指しましたが……この本を作りたくなった動機は、二つあります。

一つは、やはり月姫同人をやっているからには、最愛のキャラである琥珀さん本を出したかったことです。今まで琥珀さんが好きだと愛しているとか毒ニンジンの入った杯を干して親指を上げてみせるぜとか公言しているにも関わらず、琥珀さんの本を手がけていなかつたので、やはり琥珀さんで一冊やらないと沽券に関わる……と思っていました。

……いや、そこまで思いこみは強くなかったのですが、やはり琥珀さんを愛しているからには一遍やつてみたかったのですね(笑)。幸い手持ちの原稿に琥珀さん物があつたので、琥珀づくしで作り上げてみました。

なので、今回はアルクエイドもシエル先輩も無しです……残念、また明日く(笑)

それともう一つの理由は……『裏秋葉祭』の後遺症です(笑)。

Web企画『裏秋葉祭』を全部纏めて出す！という壮大な計画であつた同名の同誌ですが、その企画の規模故に壮絶な分量が集まり、結局はオフセットカラー表紙268pという努級の同人誌になってしまいまして……その編集のおそろしい作業の中で、「くそっ、ページの四〇頁ぐらいの同人誌が作りたい！」と阿羅本は叫んでいたのでした。

なにしろ、編集しても編集してもページがある、版下のプリントアウトが莫大、おまけに印刷コストも軽く軽自動車が買えてしまうという……でも、その代わり非常に好評を得た本でもあり、満足感も合つたのですがその中に「小さい同人誌を作りたい」という密かな欲望が宿っていたのでした(笑)

で、その二つの動機が化学反応を起こして『晩月 卷之二』の刊行に繋がつたのです。

書き下ろしSS三本と、再録関係の本と違つて管理の作業になりましたが、私自身は非常に満足して作れた本になります。皆様も、お楽しみ頂ければ幸いです。

§

§

私が琥珀さんのどの辺に魅力を感じているのか……と、やはりあの翡翠シナリオで見る哀しさですね。やはり漢としては、琥珀さんにああいうふうに言われたとすればぎゅーっと抱きしめて上げないといけない、という心境を共有して頂ける物だと思います。だからこそ琥珀さんエンディングでの向日葵の笑顔を見ると、その辛かつた日々が報いられた嬉しさがココロに染みる物があります。

というか……うう、マキキュー殺しても良いですか？(笑)

やはりろりペドはいけません、八歳の子供をやつてしまふと言るのは才二であり、琥珀さんのために何度も涙を流したことか……こう、琥珀さんを好きになつた以上は合意無きろりいには手を出しまい、と心に誓つていつもりします。

あと、琥珀さんの責めと受けのひつくり返つた態度もステキですね……ええ、もう、「あは、出しゃえの一言に何度激情を滾らせたことでしょうか(笑)。その後の『困ります、私、そんなのしたことがない……』も……あーもう、可愛いなあ琥珀

さんはっ！

であるゆえに『歌月十夜』の「タナトスの夜」はもう、啼きましたね、ええ、私の泣き声は遠く筑波の山並みにも聞こえたと言われるほどに……こう、翡翠琥珀3Pという夢を実現させてくれてありがとう有り難うアリガトウ！と……

……神様ってこの世にいるんやねえ……と(笑)

と言ふわけで、こう、私の心に琥珀さんが染み込んでいまして……和服割烹着の琥珀さんと一緒に住むためなら、秋葉を倒して……あー、倒しちゃダメか(笑)

§

§

今回も美麗な挿し絵を頂きました、福外鬼内さん、s l o u 18さん、第七雑用部隊さん、イラスト。ページをいただきましたa - b e e !さん、Se i k e nさん、それに『裏秋葉祭』に続いて表紙のデザインをしていただきました草凪 栄輝さんには感謝いたしております。絵師の皆様のご協力無くしてはこの本は成り立ちませんでしたので……まことに有り難うございます。

H Pで応援してくれる方、この本を手に取っていただいた方、そしてお読みいたいでいる皆様にも御礼を申し上げます。今回の同人誌も、お楽しみ頂ければ幸いです。

それでは、次の月姫イベントでお会いいたしましょう。
でわでわ！！

1100111111111111
四 阿羅本 拝

『睨月舎』公式H Pのご案内



<http://moongazer.f-o-r.net>

『月姫』(TYPE-MOON)のS S 中心に活動いたしておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

S S もいろいろありますので、どうかよろしくお願ひします。

『裏秋葉祭』『裏シエル祭』などもやっておりますので、是非是非～